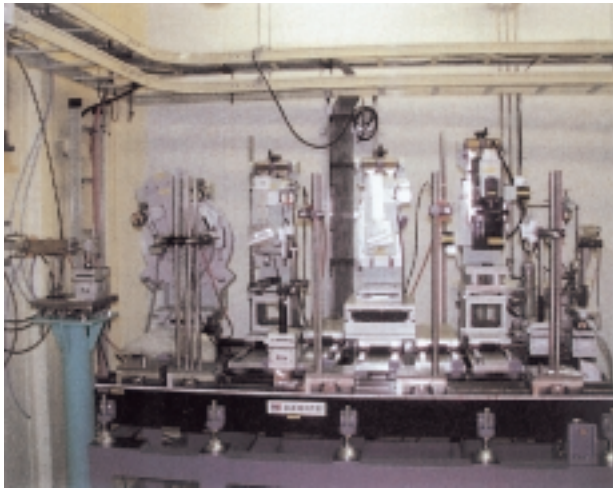
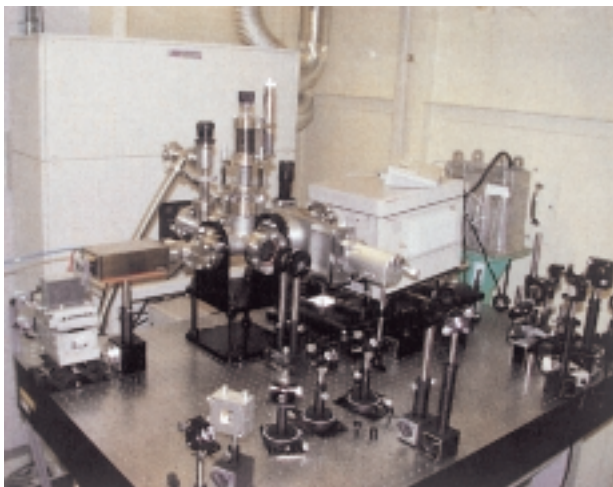
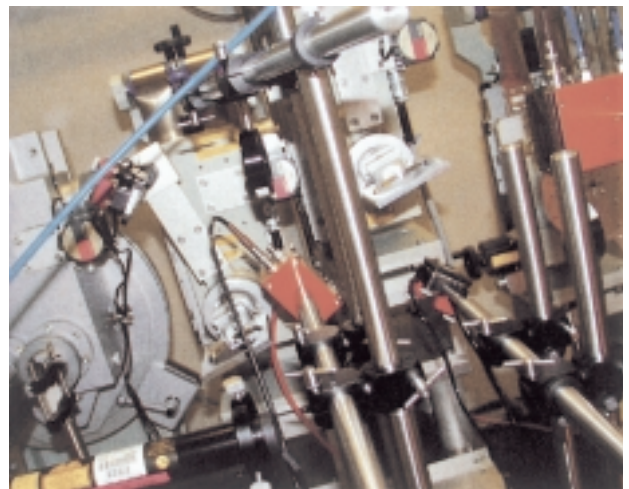




強度相関を用いた2体分離型干渉計の実験配置。ここで研究された強度相関を用いた新しい干渉計測法により、将来1000m離れた巨大な分離型干渉系を用いて重力によるX線の赤方変移の観測が試みられる。

レーザーパルスによって動作するX線シャッターの実験配置（BL29XU）。2枚の結晶を用いて、X線のオンオフを数百ピコ秒の速さで行う。



高感度X線ストリークカメラ。X線領域の光に対し感度の高いCsIをカソード面に用い、X線の時間構造の測定を数ピコ秒の精度で行うことができる。

放射光パルス同期チタンサファイアレーザーシステム（BL29XU）。X線パルスとレーザーパルスを2ピコ秒以下の精度で同期させ、ポンププローブ実験等様々な用途に用いられる。

